

# 猛暑にも対応した節電の準備を

震災の影響で今夏の電力不足が現実となっており、節電が求められている。電力削減目標も発表されているが、ゴルフ場ができることは……。

東日本大震災直後は東京電力管内で計画停電が実施されたが、企業や各家庭の節電努力の甲斐あって、4月以降は行われていない。今のところ、夏場も計画停電は実施しない方向のようだが、そのためにも、より一層の節電が求められる。経済産業省は、当初、契約電力が500kWを超える大口契約者は7~9月のピーク時で前年比25%、500kW未満の事業者は20%、一般家庭には15~20%程度の節電を求めるとしていた。しかし、休止中の火力発電所の稼働などで供給量が増えたことにより、同省は東京電力と東北電力管内の電力削減目標を一律「15%」に引き下げた。

事業協会が東京電力管内のゴルフ場の契約電力を調べたところ、契約電力が100~500kW未満がほとんどで、18H規模では契約電力が200~300kWのところが多いという。また、ゴルフ場の電力の使用割合は、空調が4割、照明3割、乗用カーや設備機器の動力が3割となっている。すぐにできる節電策としては、「エアコンの設定温度を上げる」「照明を消す」などが考えられるが、こうした対策はサービスの低下に繋がりがねないだけに、来場者の理解や協力が得られるかが重要なポイントとなるだろう。

来場者に気づかれない節電対策としては、デマンドコントロールによる契約電力の見直しがある。しかし、1年のうちたった1回でもデマンド値が契約電力を超えると、自動的に契約電力が上がってしまう。

「デマンド監視モニターを設置しただけでは、節電にはなりません。日頃からデマンド管理に気を配っていたのに、昨年の猛暑でピークカットに失敗したホテルや旅館は少なくありませんでした」と、(株)K PLANNINGの代表取締役・高妻敦史氏は語る。

高妻氏によると、

- ①何に、どこで、いつ、どのように電気が消費されているのか現状を把握し、削減計画を立てる
- ②現在の使用電力が見えるデマンドモニターを設置する(リ

アルタイムに使用状況を「数値」で見せる)

③明確な目標のもと、従業員の省エネ意識向上を図り、具体的な節電対策マニュアルを作り、行動する

この3つのポイントが大切という。

加えて、照明器具は白熱電球から電球型蛍光灯に。一般のハロゲンランプから、消費電力が3.5W~9W程度のLED電球に変更することにより使用量を抑え、電気代の削減にも繋がる。他にも、電力の利用時間を変更して分散させたり、深夜電力を活用する電気温水器等を導入するなど方法もある。

削減目標「15%」を達成するためには、まず、現状の電気の使用状況をきちんと把握することが大事だろう。

原発事故問題に端を発し、中部電力管内などその他地域でも、夏場に電力不足の恐れがある。経費削減にもなるし、「節電」の準備しておくとうい

黒砂糖 タップリの **グリーンメカ**

イネ科(胚芽エキス) 植物素材の **メカプラス**

**芝生の活力剤**

機能性ビガート サプリメント **メカエース**

キトサンなど 海洋素材の **マリンパワー**

(株)トモグリーン・ケミカル